

2021年10月23日～24日に横浜市で開催された日本泌尿器腫瘍学会第7回学術集会において、『術前化学療法を行った筋層浸潤性膀胱癌における腫瘍微小免疫環境の検討』の演題で研究発表を行い、学術奨励賞を頂くことができました。

切除可能な筋層浸潤性膀胱癌に対しては術前化学療法ならび根治的手術が標準治療とされておりますが、抗がん剤治療前後で腫瘍微小免疫環境の変化に着目した研究は多くありません。本研究は、がん研有明病院ならび国立がん研究センターで学ばせて頂いた蛍光多重免疫染色法により腫瘍微小免疫環境を評価し、治療前の腫瘍微小免疫環境と術前化学療法の奏効性との関連や治療前後の腫瘍微小免疫環境の変化について報告致しました。本研究成果により、腫瘍微小環境を構成する免疫細胞と術前化学療法の奏効性に関連性があり、バイオマーカーになり得る可能性が示唆されました。

本研究は、術前化学療法だけでなく、現在も適応拡大を続けている免疫チェックポイント阻害剤を用いた新たな治療戦略の基盤となる可能性があり、今後も継続して泌尿器癌の腫瘍微小免疫環境の研究を行いたいと考えます。最後に、本研究におきましてご指導頂きましたがん研有明病院北野滋久部長、国立がん研究センター中面哲也先生、泌尿器科学講座小原航教授をはじめとする多くの方々に深く感謝申し上げます。

